

対象地域：北海道

再生課題：里山環境の保全

ぬ っ ぶ く が わ を き れ い に す る か い ヌ ッ プ ク 川 を き れ い に す る 会

再生
目標

農地開発から逃れた良質な自然河川環境を保全するとともに、地域住民のワイズユースを促進

- 事務局
ヌップク川をきれいにする会
- 対象地域
ヌップク川
- 活動開始：S60
- 活動計画：H15

(R4.2現在)



札内川の支流ヌップク川は、約17kmの小さな自然河川です。北海道開拓の時代を経て、いままカシワやハルニレ等の大木、オオバナノエンレイソウ等の野草が一面に広がる小さな森があり、川は水質が良く冬でも凍結しないため、昭和初期に水産庁さけます孵化場が置かれました。一方、孵化場のすぐ下流は住民が出すごみ捨て場ともなっていました。

1985年、一人の住民が始めたごみ拾い活動の輪が広がり、本会が発足しました。2002年、孵化事業の廃止にともない、施設を撤去。河川は自然の姿に戻されることになりました。そこで地元住民と行政が話し合い、この一帯を「協働作業」で管理する仕組みを導入しました。現在では、住宅街に隣接する森の里山機能を保全するために、河川森林のごみ拾い、草刈り、植樹、外来種除去、自然観察会などを展開しています。

ここに注目！

蘇った自然環境を未来へ引き継ぐ

動植物が生息しやすい自然環境を保全し、地域住民の散策や子どもたちの遊びの場所となるよう草刈りをしたり、いつの間にか入り込んだ外来種を引き抜いたりするなど、地道な活動を継続しています。



林床の草刈り

自然再生の手法

- ごみ拾い
- 官民連携の活動
- 草刈り、植樹、外来種除去
- 自然観察会



自然観察会